

ガイドの目で安全確保

有志 登山環境改善へ組織結成

安全な富士登山を実現するため、富士山の登山ガイド有志が「YOSHIDA TRAIL CLUB」を結成した。ガイド活動で気付いた改善点や登山者から寄せられた声を行政などに伝えていく。代表の太田安彦さん(34)=忍野村忍草=は「富士登山のリピーターが増えるように、魅力ある登山環境を整えたい」と話す。

〈清水一士〉



「お鉢巡り」に続々

富士山は31日、好天に恵まれ、山頂火口を一周する「お鉢巡り」をする多くの登山者の姿が見られた。

最高地点の剣ヶ峰(3776m)は、休憩する登山者でにぎわっていた。
〔広瀬徹〕

「YOSHIDA TRAIL CLUB」を結成した太田安彦さん。ガイドの傍ら徴収員も務める

〔富士山6合目〕



スマート
AR
スマホで
動画
MOVIE

山梨日日新聞
静岡新聞
富士山
臨時支局

現場の声を基に提言

メンバーは富士山で長年活動しているガイド約10人。先月、日常のガイド業務で感じた問題点や課題の改善を目的に結成した。

メンバーが重視するのは登山者の安全対策の充実。登山道に救護所はあるが下山道にはなく「応急措置をするのに時間がかかり、亡くなつた人を見ていた」(太田さん)という。富士山に精通しているメンバーが自動体外式除細動器(AED)を携行してパトロールするなど、下山道の対策強化を行政に提案する考え

メンバーやは長年活動しているガイド約10人。先月、日常のガイド業務で感じた問題点や課題の改善を目的に結成した。

メンバーが重視るのは登

登山者数の落ち込みも結成の一因。富士吉田市によると7、8月の登山者数は世界文化遺産に登録された2013年は23万2682人だったが、14年は約17万6千人、15年は約15万人と減少。太田さんは「富士山は一度登った人があまり戻つてこない。再び登りたくなる環境整備が必要」と話す。

一方、県は今夏から富士山保全協力金(入山料)の徴収を始めた。「ずらし登山」は、環境省などが運営する「富士登山オフィシャルサイト」で呼び掛けている。御来光について、山頂に登山者が集中し、登山道が渋滞して事故につながる危険があるとして、別の場所で眺めるよう提案。吉田口登

登山道は「外部に委託して富士登山の知識や技術がある人を徴収員として雇用。登山者とコミュニケーションをとり、登山料への理解を求めること」が狙いだ。

太田さんは「登山者の安全を確保する対策を現場の目線で提言したい。将来も多くの人が楽しんで登れる基盤をつくりたい」と話している。

環境省富士五湖自然保護官事務所などは、富士登山を安全で快適にしてもうねつ、「ずらし登山」を呼び掛けている。多くの登山者が山頂で御来光を拝もうと、登山道の渋滞が発生している現状を踏まえ、朝日を眺望する場所を「ずらす」など、五つの「ずらし」を推奨している。

「ずらし登山」は、環境省などが運営する「富士登山オフィシャルサイト」で呼び掛けている。御来光については、山頂に登山者が集中し、登山道が渋滞して事故につながる危険があるとして、別の場所で眺めるよう提案。吉田口登

「ずらし登山で快適に」
環境省 サイトで呼び掛け

と話す。また、間をすら、同様に御来光につけて、7月下旬でがピ、登山者9~10月で開けることや、同事